

## 11 整形外科研修プログラム

### I 一般目標 (GIO)

整形外科の診療に必要な知識および基本的な手技を習得する。

### II 経験目標 (SBO s) (各項目の※は必修項目、)

#### A 経験すべき診察法・検査・手技

##### 1. 基本的な身体診察法

1) 骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる。

##### 2. 基本的な臨床検査

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

(A) : 自ら実施し、結果を解釈できる。その他 : 検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

1) 単純X線検査 ※

2) X線CT検査 ※

3) MRI検査

##### 3. 基本的手技

基本的手技の適応を決定し、実施することができる。

1) 圧迫止血法を実施できる。※

2) 包帯法を実施できる。※

3) 注射法 (皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保) を実施できる。※

4) ドレーン・チューブ類の管理ができる。※

5) 局所麻酔法を実施できる。※

6) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。※

7) 簡単な切開・排膿を実施できる。※

8) 皮膚縫合法を実施できる。※

9) 軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる。※

#### B 経験すべき症状・病態・疾患

##### 1. 頻度の高い症状

1) 腰痛 ※ R

2) 関節痛

3) 歩行障害

4) 四肢のしびれ ※ R

##### 2. 緊急を要する症状・病態

1) 外傷 ※

##### 3. 経験が求められる疾患・病態

(A)疾患については入院患者を受け持ち、(B)疾患については、外来診療または受け持ち入院患者(合併症含む)で自ら経験すること

- 1) 骨折 ※ (B)
- 2) 関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷 ※ (B)
- 3) 骨粗鬆症 ※ (B)
- 4) 脊柱障害(腰椎椎間板ヘルニア) ※ (B)
- 5) 慢性関節リウマチ ※ (B)

### Ⅲ 方略

1. 研修は、整形外科外来、手術室、整形外科病棟(2F)で行う。
2. 研修の指導に当たるのは、当科の医師スタッフ全員である。
3. 研修医は主治医の指導のもとで、受け持った患者の副主治医として診療に携わる。

#### A 外来における研修

1. 新患外来で問診、診察、検査の指示と行い、その後の指導者の診断と治療を経験する。
2. スポーツ・小児・リウマチの各専門外来で診療を見学し、診察法や治療方針の立て方を学ぶ。

#### B 手術室における研修

1. 脊椎麻酔や局所麻酔を経験する。指導者の指導のもとじっしする。
2. 手術を透視下骨折整復、ガウンテクニック、皮膚消毒、皮切、ドリリングや螺子挿入などの手術手技、術後の患部の保護まで経験する。

#### C 病棟における研修

1. 病棟で行われる症例検討会に参加する。ここで術後や臥床安静中の患者のリハビリ計画についても学ぶ。
2. 部長回診で一緒に回ること創処置や包帯法、病巣の観察や診察の仕方、注射法などを学ぶ。
3. カルテの記録法、手術記録の作成法、パラメディカルとのコミュニケーションの取り方を学ぶ。

### 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土(第1のみ)
午前	新患外来	回診	新患外来	新患、Ope あれば参加	新患外来	
午後	Ope あれば参加、 17:00～ 症例検討 18:00～ 薬剤説明会	Ope 参加	Ope 参加、 1回はリウマチ外来、 小児外来	Ope 参加	Ope 参加	

#### 指導体制

責任指導医：土屋篤志

指導医：長谷川一行

上級医：大久保徳雄、焼田有希恵、山口淳

病棟師長：夏目和代

#### IV 評価 (EV)

1. 研修医評価票の各項目につき、指導医が評価を行う。
2. 経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態について病歴要約で履修状況を確認する。